

土木森林環境委員会 県内調査活動状況

1 日 時 令和4年10月25日（火）

2 出席委員（8名）

委員長 大久保俊雄

副委員長 市川 正末

委員 皆川 巖 渡辺 淳也 山田 七穂 早川 浩

山田 一功 飯島 修

欠席委員 なし

地元議員 土橋 亨 杉原 清仁

3 調査先及び調査内容

（1）【新山梨環状道路・東部区間Ⅱ期】（甲府市落合町～笛吹市石和町東油川）

○調査内容（主な質疑）

（峡東浄化センターにおける説明・質疑）

問） 新山梨環状道路と中央自動車道のアクセスをどのように考えているのか。

答） 新山梨環状道路と中央自動車道について、東部区間では接続する計画にはなっていない。ただし、リニア新駅となる仮称、甲府中央スマートインターチェンジでは、中央自動車道から直接乗り降り可能なスマートインターチェンジを計画している。アイメッセの前あたりとなる新山梨環状道路・南部区間とは、駅へ向かうメイン道路を介して接続する計画となっている。



※ 峡東浄化センターにて概要説明を受け、質疑を行った後、濁川・平等川橋（仮称）上部工架設工事現場を視察した。

(2) 【意見交換会】

①出席者 県立農林大学校森林学科の学生

②内 容 「若者が働き、活躍できる山梨県の林業について」

○主な意見

委員) 初めに、学生の皆様から農林大学校森林学科を進学先として選んだ理由、林業を経験しての感想、例えば想像とのギャップ、大変だったこと、やりがいを感じたことなどについて、お一人ずつ話を伺いたい。

出席者) 私が森林学科を進学先に選んだ理由は、もともと農林高校で森林の勉強をしていて、森林のことをもっと深く知りたいと思ったからである。
授業で林業を経験・体験して思ったことは刈払機や植栽後の地形を見て、「ここから育つのか」と実感し、やりがいを感じたことである。

出席者) 私が森林学科に進学した理由は、高校のときの先生がこの学校を勧めたからである。私は神奈川県からことし移住してきて、この学校に通っている。最初は、卒業後すぐに事業体に就職しようと考えていたが、神奈川県は事業体が特に少なく、林業関係の仕事がほとんどなく、高校の先生からも、まずは勉強してから林業に就いたほうが良いと勧められ、ことし開校するこの農林大学校に進学した。
授業で林業を経験してみて思ったことは、重機の操作を始めてから作業が格段に楽になったことである。最初、チェーンソーだけを担いで山に入り、木を切って、玉切りなどをしたが、運ぶのが大変で、これをグラブやフォワードなどの重機を使って運ぶと、とても楽になるので、重機関係の勉強をもう少し深く学びたいと思った。

出席者) 私が森林学科を進学先に選んだ理由は、去年まで農林高校の森林学科で林業を学んでおり、そこで蓄えた知識をもとに、ここに来て技術を学び、即戦力になりたいと思ったからである。
学校の実習を通して感じたことは、チェーンソーの操作が自分の思いどおりにいかないことである。高校のときはチェーンソーの実習はあまりなく、映像で見ていただけだったが、そのときは現場の方たちが簡単に木を倒している映像を見て、木は簡単に倒れて、チェーンソーも扱いやすいのかなと思っていたが、いざ自分でやってみると、木が思いどおりのところに倒れなかったり、チェーンソーの重さに手を取られたりして、なかなかうまくいかなかった。でも、自分の思ったとおりに木が倒れると、倒れたときの達成感はとてもいいものだった。

出席者) 進学先として選んだ理由は、高校の授業の中で、国産材が少なくなっていることを知り、木材を生産できる林業について興味を持って森林学科に進もうと思ったからである。
授業の中で感じた林業の厳しさは伐倒作業で、伐倒方向や安全な作業、かかり木を知った。高性能林業機械を用いることで、生産性や効率化、安全な作業ができることを知った。

出席者) 私がここを進学先として選んだ理由は、進路を決めていく中で、地元の山梨県に最終的には就職したいという考えがあって、甲府商業高校の出身なので、商業系の学校に行くという選択肢もあったが、昔から自然が好きで、山梨県の価値ある森林に携わって、県の発展に寄与することができればと思ったからである。

高校でも林業を学んでいた人がほとんどだと思っていて心配だったが、意外とほかの学科の人もいて、一緒に協力しながら授業を進められているため楽しくやっている。

出席者) 私が森林学科に入学したのは、家にまきストーブがあり、そのまきを、チェーンソーなどを使って調達していたが、その姿を祖父が見ていて、有限会社天女山に体験に行くよう勧められ体験に行ったことがきっかけである。そこで体験したのが特殊伐採で、所有地の中で木を上からだんだん玉切りをしていく作業で、私はその作業を見て、最初は難しいと感じたが、興味がわき、そこで、この学校に入学したいと思った。学校の授業は、前半は座学がほとんどだったが、後半は実習がふえてきて、とても楽しくやっている。

出席者) 私が農林大学校森林学科を進学先として選んだ理由は、もともと私は父と一緒に山に登ることが多く、森林の豊かさが好きで、この森林はどうやって保全されているのかと疑問に思って調べたのがきっかけで、どんどんと林業について学んでいきたいと思ったからである。私は高校では普通科だったので、林業については携帯で調べる程度の浅い知識しかなくて、この学校が開校するというので、進学して林業についての知識をつけてから林業に就きたいと考えて進学先に選んだ。

授業で林業を経験しての感想は、木を切るという当たり前の作業がとても難しく、当たり前のことをやり続けることはとても大変だなと思った。木を切る際、どうしても危険なところはあって、練習と同じ場所の一つとしてないので、まず自分の身の安全を考えながら、どうやって木の価値を最大限出していくかを考えたら、体だけではなく頭も使っていく仕事だと実感した。やりがいは、考えた上で木を切ることで達成感が味わえることで、最近やっと木を1本切る実習をやるようになってきたので、今後、残りの授業生活は、もっと林業の知識、そして実習でも経験を積んで、将来は、林業経営体の中核になれるように頑張りたい。

出席者) 私が森林学科を進学先に選んだ理由は、農林高校で森林のことを学び、林業に興味があき、将来は林業関係の仕事に就きたいと思い、より専門的な知識や技術を身につけたいと思ったからである。

林業の授業を通しての感想は、高校のときよりも実践的な実習ができ、自分が成長できていると感じることができ、授業に積極的に参加することができることである。

出席者) 私が森林学科を志望した理由は、もともと自然と深い関わりがある林業に興味があり、林業について学びたいと思ったときに、ことしから森林学科ができるということを知り、この学校では取れる資格も林業に関わる資格が多く、また、みどりの雇用給付金などの支援も充実していたからである。

授業をやってみての感想は、日々新しいことを学べていて非常に充実している。

委員) 実体験を踏まえた自らの言葉で、熱い思いが十分伝わった。

ここからは、テーマである『若者が働き、活躍できる山梨県の林業について』で、フリートーク形式で意見交換を行いたいと思う。進め方は、まず、委員から意見、質問を伺った後に、学生の皆様から意見等があればお答えいただきたい。その後、逆に皆様方から私どものほうに意見または聞きたいことがあれば伺う。フリートークなので、私のほうで名前を指名したりはしないので自由な雰囲気のもとで会議を進めたい。

委員) まず、学校の関係者に伺いたいのが、森林学科の1学年の定員は10名で、総定員20名とあるが、1学年と2学年で20名という解釈でいいのか。生徒に女性はいないのか。

出席者) そのとおりである。女性はこの学年には今のところいない。

委員) 男子校ということではなく、公募はしているが入学者がいないという解釈か。

出席者) そのとおり。公募はしている。

委員) 本県は78%が森林という中、若い人たちの思いを聞いてとても頼もしく感じている。将来、生計を立てなくては行けないという課題が出てくる中で、就職先が造林関係や森林組合、あるいは素材生産業、いろいろとあると思う。もちろん生徒の希望もあると思う。企業とのマッチングや就職先とのインターンシップなど、すぐ2年生となり卒業になると思うが、その辺の準備は学校としてもとても大事だが、その辺はどうか。

出席者) 就職については、1年生は半年がたち、来年度には卒業ということで準備を進めている。直近では、10月29の土曜日に、林業労働センターが主催する『森のガイダンス』という林業の企業さんと林業に就きたい方々をマッチングする催しがあり、そちらの場に学生も参加し、林業の企業の方々と話をする機会を設ける予定になっている。その後、林業関係団体のほうと調整して、求人票を出す方法などを示しながら、学生の希望を取って、マッチングして、就職先を確保したいと考えている。

委員) 最終的には、社会人として林業で生計を立てるので、もうかる林業を山梨県で確立しようということで、そのためだけの学科ではないが、そういう意義のある学科だと思うので、学校もそういう準備をされていることを聞いて安心した。

委員) 資料に在学中に取得できる主な資格とあり、ここに11個書いてあるが、あと4つは何か。

出席者) 資料の下から3つ目にある機械集材装置の運転業務に係る特別教育と似たような資格が1種類あり、それから、猟友会の方に授業に来ていただき狩猟免許も受けられるような計画となっている。

委員) 習得して、最低限の資格試験があつて、資格試験に受かった場合、何とか技能士とか、士がつくものはもらえるか。

出席者) 特にそういった制度にはなっていない。こういった教育を受けたとか修了証をもらったとか、そういうものである。

委員) 何とか技能士ではなくて、こういう講座を受けたとか、習得したということが経歴になって、就職にも有利になるという解釈か。

出席者) そうである。

委員) この資格を求めている企業があるということだと思うが、この中で、企業が一番求めている資格は何か。

出席者) 例えば、一番上の伐木等作業従事者特別教育は、労働安全基準法に基づき、雇う側は、山で木を切る作業に就かせる際に作業員に教育を受けさせなければならないとい

う内容で、林業会社では必ず従業員に受けさせなければならない資格である。あとは、下のほうにある機械集材装置の運転業務に係る特別教育も、機械を使って伐木作業をするときには受けさせなければならない教育なので、こういったものは必ず必要になってくると思う。

委員) 山梨県は日本の中でも有数な林業県であるが、林業自体に携わる担い手不足を補うという意味で、非常に頼もしいなど皆さんの話を聞いていて感じた。今、木そのものをもっと強くして、鉄筋にかわるような合板になってきているが、そういうものには感心があるか。

出席者) 合板など、そういう木材を新しい形に流通させることに非常に興味がある。昔は家の梁など建築の骨として使われていたところが、今では鉄筋が使われてきて、市役所とかでは防振とかあるので、そうなると、どうしても木材は使われなくなってきているが、木材の重要さは国民も私たちもわかっていて、関心も高まっているので、そうやって、例えば公共施設の外装などに木材を取り入れるなど、また、合板などを駆使しながら、木材の新たな価値を生み出すことは必要だと思うので、私もそういうところには関心がある。授業で1回、集成材をつくるのを見せてもらったが、まだ深くはできていないので、実習を重ねて、どういうふうにつくられるのか、どんどん知りたい。

委員) すばらしい答え。どんどん自分の視野を広げていただきたい。

委員) 森林組合を訪問した際に、担い手不足に対応する森林学科をとということで、農業大学校の中につくってくれないかという要望を何年も前に聞き、やっと実現した。その中で、農林高校からの入学者が何人かいたが、高校のときに林業学科を志望した理由を教えてほしい。

出席者) 高校のときは、もともと森林が美しくて環境を整えたいという目的で、森林の勉強をしてみたいと思い、農林高校の森林学科を受験して受かったので、そこで勉強した。

出席者) 私は神奈川県の高校で、高校が山を持っていて、1年生の実習のときに実際に山に登って木を切った。2年生になって選択授業で森林科学という授業を選択して、実際に静岡県的小山町の事業体を見学して、CLTなどの合板工場を見学した。高校の先生も実際に林業で働いていた先生で、農林業をやってみないかと強く推されて、自分もこの仕事だったら続きそうだなと思い、ここを選んだ。

出席者) 私は中学2年生のときにアメリカにキャンプへ行ったことがあって、そのときに森や山の中をハイキングして、そのときに見た森が整備されていて、とてもきれいだった。そんな山をつくりたいなどと思い、農林高校の森林科学科という選択肢が出てきて選んだ。

出席者) もともと自然が好きで、中学校で高校を決める際に先生に相談したところ、農林高校がいいということで進学した。

委員) 実際に、シミュレーターでやっていたような林業ももちろんあるし、山梨県は県有林が78%ある中で、60%ぐらいは御下賜された県有林で、普通は国有林か民有林だが、山梨県だけが県有林というのがある。民有地もそうだが、戦後77年たって焼け野原になったところが、40年、50年以上の木になっていて切らなければならない

いが、林業がもうからないからか、違う産業に行ってしまうと、現実、森林を育てるには重機を使ってやるような華々しい場面だけではなく、下草刈りや枝打ちも含めて、そういう大変な作業があることは、もちろん知っていると思うが、そういう覚悟があるのか。

出席者) はい。

委員) その上で、林業に対する今後の思い、林業を通じてどういう仕事に就きたいのか、短くてよいので教えてほしい。

出席者) シミュレーターで使っている重機などを、よりうまく使えるようになっていきたい。

出席者) 私は重機と同じく、ドローンを使った測量を通じて山の管理ができるようになりたい。

出席者) 私は同じく重機を使って、今ある山も森林資源も無駄なく使っていきたい。

出席者) 私も高性能林業機械で木材を生産していきたい。

出席者) 私は木を切った後、法律で植えなければならないので、種苗業などに興味がある。

出席者) 私は重機で木を何本もなぎ倒したい。

出席者) 私は現在、伐倒期を迎えている木材を新しい形での利用ということで考えて、新しい木材の価値を与えるためにいろいろな知識をつけたい。

出席者) 私も高性能林業機械を使った林業をしたい。

出席者) 私は下刈りも植栽も山梨県の森林のためにバリバリやっていきたい。

委員) 高速道路でいろいろなところへ行くと、特に関西に多いが、竹がどんどん伸びて、いずれ里山が竹やぶになってしまうのではないかと多いところが多いので、皆さんの力で何とかしてもらいたいと思う。

最後に、高根町出身の浅川巧さんのことを知っている方は手を挙げてほしい。

(数人の学生が挙手)

知らない方は、浅川巧さんの本を読んでほしい。簡単に言うと、朝鮮半島で森林産業をやっていた農林高校の出身の方で、山梨県がたびたび韓国に訪問するのはそういうこともある。知らない方は読んでほしい。

委員) 森林学科ができて、まだ1年たっていないが、これからどんどん学校として改善していかなければならないことは多いと思う。学校の先生がいる前で言いづらいかもしれないが、ここを何とかしてくれればもっと学校がよくなるのにという要望などがあったら教えてほしい。

出席者) 伐倒練習機という同じ斜面で練習できる練習機がある。それをもう1台ふやしてほしい。間伐の授業のときに、山に登って、また下りて、そこで演習という時間をもつ

たない。そこを何とかしてもらえたら、よりスムーズに学べるのではないかと思う。

委員) 今の話はどうか。

出席者) 伐倒練習機というのは、斜面25度まで再現できる機械で現場に行かなくても練習ができる。高額な機械で1台しかない。今、実習場所はすぐそばにあって、ローテーションで各班、練習をして、間伐をすることを繰り返しているが、来年以降、伐採する現場が遠くなるので、そこをどうしようかなと悩んでいるところ。

出席者) 私は県内の林業従事者の、自分に負傷は起こってはいなくとも、実はこれは危なかったみたいな形のヒヤリハットを編集して、まとめたようなものがほしい。実際、私たちもまだ半年しか林業を学んでいなくて、現場に出ている人は知識としてわかっているけど、山は知識が通じないところもあり、偶然が重なって大事故が起こることもあると思う。今後、私たちがやっていく上で、こういうことは絶対にやってはいけないみたいな、ヒヤリハットなときを、もともと知っていれば、その行動をすることはなし、今後、私たちよりも下の代も、ヒヤリハットを知ることによって、これは危険だなという形がわかるので、林業従事者などが林業に携わる中で、事故にはなっていないが自分の中ではこれは危なかったなということが知りたい。

委員) 林業をやっている方や経験者と意見交換ができる場はあるのか。

出席者) 今の話は学生だけでなく、林業をやっている担い手の皆さんに共通する話だと思うので、前向きに取り組みたい。

委員) 熱い思いを聞いて、山梨県の林業の未来は明るいと思った次第。まず、自宅から通っている人は手を挙げてください。

(数人の学生が挙手)

委員) ほとんどの方が自宅を出て、一人暮らしをしている。神奈川から、通っているのか。

出席者) 富士川町の町営住宅で一人暮らしをしている。

委員) 一人暮らしだと勉強と生活との両立が大変だと思う。私が学生時代はバイトをしていたが、バイトしている人はいるか。

(数人の学生が挙手)

ぜひ時間を工夫して頑張ってもらいたい。

皆さん、4月に入学して10月まで半年ぐらいたち、いろいろな授業を受けて来て一番印象深かった授業、これは楽しかったとか、これはためになったなという授業を一人ずつ教えてほしい。

出席者) 私は間伐授業で、自分で木を切って倒す、その倒れるときに待避しなくてはいけないタイミングを学んで、木はすぐ倒れるので、すぐ移動できなければ死んでしまうことがわかったところ。

出席者) 私はチェーンソー作業をやる前に、富士川町内の森で刈払機での刈払作業を実際に

やったが、実習地とは全く違う地形で、急な斜面であったり、楽な斜面もあったり、さまざまな地形があって同じ地形は絶対がないこと、あと、足元の確認、雨が突然降ってきたり、蜂の巣が全く意図しない場所にあったり、自然の影響について知ることができてとてもためになった。

出席者) 私が一番印象に残っているのは植林の実習で、そのときは天候も悪く、急斜面のところに植林をしていたので、霧の中、みんなでタイミングを合わせながら、急斜面に等間隔で木の苗を植えたが、山の天候が安定しないことは林業をする上では仕方ないことだと思い、勉強になった。

出席者) 私は下刈りのときに猛暑が続いて、頑張りすぎて熱中症になりかけたときがあって、印象に残っている。

出席者) 私は、先日、東京の国際展示場に連れて行っていただいて、そこでいろいろな方の話や実際の先進的な技術などを間近に見られて、とてもよい経験と勉強になった。

出席者) チェーンソーの目立てである。今までは専門の人に教えてもらえないから、適当というかよくわからなくてやっていたのですぐだめになってしまった。本業の人に教えてもらえてためになった。

出席者) 私も先日の展示会がとても印象的で、知識をつけずに行くのと、学校の授業で知識をつけて行くのでは大きな差があって、例えば、実際に植林などの一通りの作業について知識をつけていったことによって、やっぱり現場の気持ちというか、なぜこれをつくったのか、確かにこれは必要だよなっていう気づきもあって、今後、自分たちが就職する林業のためにも熱心な話を聞けて、とてもためになった。

出席者) 自分が一番印象に残ったことは、初めて木の伐倒をしたときである。伐倒練習機で何回も練習したが、実際に現場に立つと、どの伐倒方法にするか、どこを待避場所にするかなどが混乱してわからなくなってしまったのでとても印象に残っている。

出席者) 私は、講師の秋山さんという人がいて、その人の話は経験談などを交えて教えてくれるので、とてもためになる。

委員) 今、担い手不足、特に若い方々が林業に就職する人は少ないといわれて久しくたつが、魅力的な林業だということを皆さんに発信してもらいたい。そして、県産材というのは大きく注目されていく分野なので、開けた未来が見えると思うので、ぜひ学んだことを大きく発信して、一人でも若い人が林業に参加するように皆様の力を貸してほしい。

委員) 勉強でも息抜きは必要。授業以外でサークルや運動など、皆さんの趣味、具体的にどのようなことをしているのか。ストレス発散方法を教えてほしい。

出席者) 私は筋トレをして足腰を特に鍛えている。山を登るときに足の筋肉を使うので、その辺を重点に鍛える。あとは友達とサッカーをする。

出席者) 私は自転車で昭和町や甲府市まで走りに行ったりするのが好きで、ことし初めて山梨県に来てまだわからない場所や知らない場所があるので、足腰の筋トレも踏まえて自転車で走っている。

出席者) 私は運動はあまりしないが、日々の疲れは家で本を読んだり、たまに車でどこかへ出かけて何か食べたりしてストレスの発散をしている。

出席者) 私はドロップハンドルという競技用の自転車で山や県外に行って美味しいものを食べている。

出席者) 昔は古銭を集めるのが好きで骨董市に行ったりしていたが、最近は家に帰ってゲームして、家から出てもゲームセンターに行ってゲームという生活をしている。

出席者) 私は特にストレスはない。

出席者) 私は、バイトで入ったお金をたまっているお金を眺めてにんまりとしている。

出席者) 私はスポーツがもともと好きで、普段はバスケットをして、土曜日は中学校で一般の方がソフトバレーをやっているの、それに加わってやっている。

出席者) 私は虫や花など自然が好きなので、休日も山に行く。

委員) 筋トレに行ったりしてストレスを軽くして、人間は張り詰めているとストレスがたまるので生き抜きをして頑張ってもらいたい。

堅い話になるが、皆さん、森林学科に入って、この先、材木をなぎ倒す職に就く人もいるし、ドローンで山を管理する仕事に就く人もいるかもしれない。一方、違うビジネスに進む人も出てくるかもしれない。現在、森林に対する一人一人の夢や思いがあると思う。5年、10年たてば変わって当然だが、今の時点で、皆さんが山梨県の林業をどう思っているのか、どうしたいのか、難しく考えなくていいので、山梨県の林業をこう思っていてこうしたい、そのためにはこんな課題があるから、それをこうしたらいいというのがあったら伺いたい。

出席者) 私は女性の支援について林業でも考える必要があると思う。第一次産業に林業は入ると思うが、第一次産業の特徴として女性の数が少ないことがあり、それは力仕事が多いと思うし、やっぱり女性は第二次・第三次産業のようなサービス業のほうが多くて、自分が中学校や高校で進学先や就職先を考える際、男女がいるということを選ぶ。今、林業は高性能の林業機械があって、力仕事は全てではないことが分かっているから、女性の支援をふやして、女性の人たちをどんどん業界に入れて、そうしていくことでIT企業とかそういう形に進んで行けるのかなと思う。

出席者) 山梨県はおおよそ8割が森林で、人里から離れたところの森林に昔、植えた人工林が整備されずに多く残されている。今後、人工林のまま維持して持ち続けることはやっぱり無理で、それを天然の森林に戻していくことができればいいなと考えている。

出席者) 林業に関して若者が少ない。私たちも10人定員中9人で、来年度は何人入ってくるかわからないが、シミュレーターの体験や高性能林業機械の展示会、企業ツアーへの参加などをもっとやっていけばいいのではないかと感じた。

委員) そういう意識を持ち続けていただきたい。
最後に、議員からのお願いで、ぜひ選挙に行ってもらいたい。

委員) 学生の皆さんのほうから意見はあるか。

出席者) 山梨県は、国有林ではなくて県有林、私有林という形で、大体、森林を占めている状態だが、県有林のほうは山梨県の外側に位置することが多い。私は夏休みに県の林政部のインターシップに参加したが、現場の距離が遠くて移動に時間を取られてしまって、実際の見える時間は少ししかなかった。どうしても北杜市のほうは一本道が多くて、その道を通らなければ現地にいけない、くねくね道が多いので、やっぱり山梨県の外側のほうの道路の整備について改善してもらえたらと思う。

委員) 林道整備をしっかりとしてほしいということだね。それは我々の責務だと思うので、しっかりと県に対して訴えていく。
熊や鹿が出たりすることが多くなって広葉樹が少なくなったと言われている。広葉樹についてはどんな関心を持っているか。

出席者) 広葉樹の場合は家具に使われることが多いが、建物としては、曲がりとかがあったりして、針葉樹と比べれば広葉樹は性能的には劣るが、景観として取り入れる場合は、私は広葉樹が好きで、特に今の季節、観光地一帯に見える景色はとても好きなので、私的には景観としては残してほしいと思う。

委員) 山梨県の木は木目が狭くて非常にいい木が多い。それを他県に持って行って他県のブランドになったら大変なので、ぜひ皆さんに頑張ってもらって、今まで以上に素晴らしい県産材として、もっとブランド化して、皆様の手で盛り上げていただければと思う。
今日は、皆さんからすばらしい意見が聞けて、本当に我々も勉強になった。皆さんの意見をどんどんこれからの県政に反映したいので、機会があったら、ぜひ忌憚のない意見を我々県議会議員にいただけたらありがたい。

委員) 貴重な意見をありがとうございました。大勢の意見に流されたり、情報社会でうのみにしてしまったりする現在において、きょうの話を聞いて非常に頼もしいと思った。今後、こうしたほうがいい、こうしたところを改善してほしいという意見があったら、ぜひ教えてほしい。議会と県の皆様で意思疎通をして、勉強しやすい環境、また、皆様の将来が実現可能となるように、皆様の御精進、御活躍を祈念申し上げたいと思う。本日の意見交換は今後の委員会活動に必ず生かしていきたいと思う。



※山梨県立農林大学校富士川キャンパス（山梨県森林総合研究所）にて意見交換会を実施した。